

2010年12月資料展示

<The Holy Bible: 欽定訳聖書

Authorized Version [King James Bible]>

『欽定訳聖書』(AV: Authorized Version、別名 King James Bible) は、イギリス国王ジェームズ1世が集めた50数名の聖職者・学者によって1607年-11年の間に完成した代表的な英訳聖書です。国教会公認の「主教聖書 The Bishop's Bible」(1568)を底本にし、ヘブライ語、ギリシア語の原典からの新たな翻訳を集大成しており、1611年の刊行以来、4世紀にわたりシェークスピアと並んで英米人の精神・思想・感情生活を育んできました。

英訳聖書は、その後も改訂が続き、近年では1989年にイギリスで『改訂英語聖書』(REB: Revised English Bible)が、1990年にアメリカで『新改訂標準訳聖書』(NRSV: New Revised Standard Version)が相次いで出版され、注目を浴びました。前者には、伝統からの独立をとらえた現代英語訳の特色があり、後者には『欽定訳聖書』の古典的な文体を保持する特色があると言われています。『欽定訳聖書』自身もまた、英語文化の遺産として現代でも読み継がれています。

『欽定訳聖書』初版の中でも、ルツ記3章15章の「町へ戻って行った」の主語を“He”とするものと、“She”とするものの2種類があり、立教所蔵の本書は、『欽定訳聖書』の“She”版です。

立教大学を創設した聖公会を生んだ英国宗教改革の原動力として、『祈禱書』と『欽定訳聖書』などの英訳聖書の誕生が位置づけられ、英文学を理解する上でも『欽定訳』はシェークスピアと並ぶ必要条件でもあります。またかつて英米文学科はこの2つを必修としていました。ファクシミリ版(複製版)は、人文科学系図書館西書庫1階(大型)(DDC:220||B58)に配架されていますので、手に取ってご覧ください。

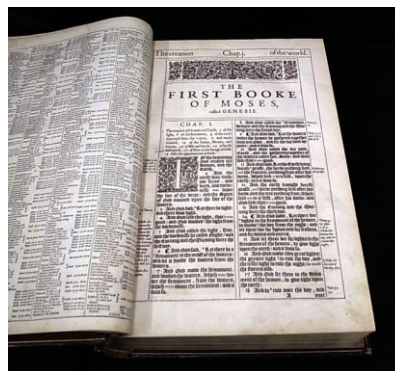
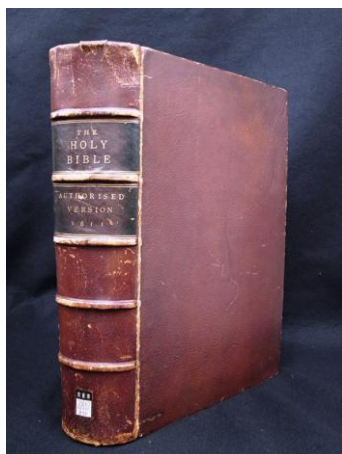
※上記の文章の内容については、寺澤芳雄『名句で読む英語聖書』(研究社2010)、平凡社世界大百科事典(1998)、『聖書と日本文化』(立教大学1999)などを参考にさせていただきました。

立教大学図書館

<展示資料>

1. 『欽定訳聖書』 The Holy Bible, conteyning the Old Testament, and the New [Authorized Version : AV]

London : R. Banker, printer to the Kings most excellent maiesties, 1611



2. 『改訂英語聖書』

The revised English Bible with the Apocrypha [REB]
(New Rochelle, NY : Oxford University Press : Cambridge University Press,
1989)

3. 『新改訂標準訳聖書』

The Holy Bible : containing the Old and New Testaments with the Apocryphal /
Deuterocanonical books : new revised standard version [NRSV]
(Nashvill: Thomas Nelson, 1990)

